

全日本仏教会会長 江川辰三様
副会長 代表理事 御各位

ブッダガヤ大菩提寺管理権返還に向けて協力・支援のお願い

世界の仏教徒の根本道場であるインド・ビハール州ブッダガヤの大菩提寺は、釈尊成道の現当地にして地上唯一の聖跡であります。釈尊が禅定に入られた菩提樹を記念してマウリヤ朝アショーカ大王の時代に金剛宝座が設けられ、歴代の王朝もその跡を尊び大菩提寺として伽藍が整えられました。7世紀にブッダガヤを訪れた玄奘三蔵は現在とほぼ同じ高さの大塔を拝しています。仏法の伝わった国々では、近き人は巡礼に赴き、遠き人は思いを馳せて世尊の遺跡を偲びました。成道より凡そ1700年、この地は法輪の軸として世界の仏教徒の中心地点でありました。

しかし13世紀初頭イスラム軍の侵攻によって、インド各地の仏教寺院は破壊され、多くの僧尼が殺されて仏教は壊滅状態となり、大菩提寺は破壊から免れるため土に埋めて隠されてしまいました。そして仏教徒のいなくなったインドで、その存在は忘れ去られてしまいました。

1880年、インド考古調査局長官アレキサンダー・カニンガムは大菩提寺の位置を特定し大規模な発掘を行い、600年の時を超えて大塔はその姿を現しました。諸国の仏教徒は、ブッダガヤを訪れ再び金剛宝座に額き大塔を拝しました。ところがブッダガヤの地はヒンドゥー教バラモンのマハタ氏の取有するところとなっており、境内ではヒンドゥー教の供儀が行われ、仏像は持ち去られ諸王朝の寄進した塔や精舎は破壊の危機に瀕していました。

1892年スリランカの仏教者、アナガーリカ・ダルマパーラ居士はこの状況を憂慮し、大菩提会を設立して大塔の仏教徒への返還運動を開始しました。当時の日本仏教も印度仏蹟興復会を結成してこの運動に協力し、各国の仏教徒も様々な働きかけを行いました。

1947年インド独立後、インド政府はブッダガヤを国際的な仏教の中心地とする方針を示し、1949年ブッダガヤ寺院法を制定して管理委員会を発足させ、大塔の管理権はマハタより管理委員会に移譲されました。しかしこのブッダガヤ寺院法では委員9名の構成の内、必ずヒンドゥー教徒が過半数を占めるように規定されており、実質はヒンドゥー教優位の管理体制が認められていることとなります。これがゆえに私たち仏教徒にとっては容認しがたい様々な不合理が行われ、現代にいたるまでその問題は続いています。

1956年10月14日、インド共和国憲法起草者ババサーヘブ・アンベードカル大菩薩はインドに根強く残るカースト差別のくびきから脱するために中央州ナグプールに於いて、60万人の被抑圧階級民衆と共に仏教に改宗しました。これよりインド仏教は復興の烽火を上げ、自由と平等と博愛の実現の為、法の実践の道を歩み始めました。私は日本に生まれましたが、釈尊の説かれたこの道を進む道程で、貧しくも前を向いて歩み始めたインド仏教徒の民衆に出遭い、共に歩む決心をしました。同じものを食べ同じところに暮らし、改宗式や仏教行事を執り行い、仏教徒を組織して様々な社会運動を行ってきました。そして多くの人々の協力によりインド国籍を取得しインド人となりました。アンベードカル博士の改宗から60年、今やインドの仏教徒はその数を大いに増しつつあります。

ここにおいてインド仏教徒民衆は、自らの信教の根本聖地であるブッダガヤ大菩提寺が他教徒優位の管理下にある状況を憂慮し、1992年、インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会に対し、大菩提寺管理権の仏教徒への返還を求める運動を開始しました。私たちはあらゆる平和的手段により様々な運動を展開してまいりました。首都デリーやブッダガヤに向けてのデモ行進や断食や座り込みなどの運動を敢行し、インド政府大統領やビハール州首相に嘆願書を提出し、国連事務総長に書簡を送り、パリのユネスコ本部やジュネーブの国連人権高等弁務官事務所を訪れてこの問題の国際的な関心を提起しました。25年以上にわたる私たちの運動は、ブッダガヤの状

況改善に大きく寄与しています。しかしその根本的な問題である大菩提寺管理権は、依然として1949年ブッダガヤ寺院法を適用したままの状態であり、我々の願いは未だ成就しておりません。

2012年、私はインド最高裁判所に1949年ブッダガヤ寺院法の廃止と新法の制定を求める裁判を提起しました。長らく継続審議となっておりましたが、本年7月本格審議が始まりいよいよ最高裁判決が下されようとしています。

この運動は、アンベードカル大菩薩を導師として立ち上がったインド仏教徒にとって、自らの存在を確立する人権運動でもあります。また世界の仏教徒にとっても、その根本聖地が抱える矛盾の早期解決が望まれています。日本でもダルマパーラの時代から様々な人が関わり、私たちの運動に対しても臨済宗・黄檗宗連合各派合議所、岡山県同宗連など多くの方々からご支援ご協力をいただいってきました。まさにその所願とするところは、ブッダガヤ大菩提寺管理権の仏教徒への完全返還にあります。大菩提寺管理権返還は、仏教徒がその根本聖地を取り戻す運動であり、ブッダガヤを中心に世界の仏教徒が結集し、人類に平和と共生を提言する仏教の未来に大きな貢献となるでしょう。是非この問題を正確に認識し、関心をもってご支援ご協力をいただきたいと思います。

どうか我が祖国である仏教国日本の皆様、同じ教えを灯とするインド仏教徒民衆と共に立ち上がってください。

1. インド政府、ビハール州政府、ブッダガヤ寺院管理委員会にブッダガヤ大菩提寺管理権返還の提言を行ってください。

それぞれ所属される宗派、本山、組織にてブッダガヤ大菩提寺管理権問題について協議し、インド当局が平和的決断を以て返還を実施するようアピールをお願いします。

2. 裁判費用をご援助ください。

最高裁における長期の裁判には多大な費用が必要となります。是非ご協力をお願いいたします。

2018年 11月 12日
ブッダガヤ大菩提寺全インド解放実行委員会
会長 アーリヤナーガールジュナ佐々井秀嶺

(署名)